「天は神の栄光を物語り、大空は御手(みて)の業(わざ)を示す。」

マタイによる福音書 6 章 7～10 節

女子聖学院中学校･高等学校社会科教諭　柏倉　康成

･･･本日の聖書箇所は、イエス様が「お祈りをするときにはくどくどと長たらしく祈らないで、こう祈りなさい」とおっしゃって、いわゆる「主の祈り」を教えてくださっている場面です。

ルカによる福音書にも同じ場面が描かれていますが、今、私たちが普段の礼拝で唱えている主の祈りの出だしは、次のようになっています。

「天にましますわれらの父よ、願わくは、御名(みな)を崇めさせたまえ。御国(みくに)を来たらせたまえ。御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。」 です。

ところで、皆さんは「天にましますわれらの父よ…」と唱えた時に、ここに出てくる「天」とは、どのようなものをイメージしているでしょうか。

多くの場合は、「大空」をイメージするのではないかと思います。

中 1 の皆さんはまだあまりその歌を聞いていないのではないかと思いますが、高橋恵一郎先生が顧問をなさっている女子聖の賛美サークルに、MPM があります。そして、毎回の賛美で歌うテーマソングがあります。テーマソングの題名は、『小さな祈り』。

その『小さな祈り』の歌詞に「大空」が出てきます。

たとえば･･･

「ずっと　幼い頃に　空を見上げながら　感じていた平安　与えてください」 や

「こんなに大きな空の下で　空より大きな主の　ふところで 」といったフレーズです。

この歌詞の中の「大きな空の下」という言葉は、「天(てん)の下」とも言い換えられます。

そう、「天」とは、ほぼ「大空」のことです。

そして、私たち人間は、神様を思うとき、しばしば「天」を見上げます。見上げた「天」には神様がいらっしゃって、神様がいらっしゃるその国が「神の国」イコール「天国」となるのです。

その一方で、「フットプリント」という話があります。日本語の題名は、「あしあと」といいます。この「あしあと」のストーリーは、***「ある夜(よる)、わたしは夢を見た。わたしは、主とともに、なぎさを歩いていた。」***で始まります。

そして、***「わたし」***と***「主」***がともに歩んできた砂の上の足あと(＝フットプリント)を振り返って見ると、足あとが一人になっている時があるのに気づくが、それは、***「主」***が***「わたし」***を背負って歩いてくださって

いた、*「わたし」*の人生にとってつらい時期であったことがわかる、というストーリーです。
　朝の礼拝などで今までも多くの先生方が紹介してくださっているこの有名なストーリーは、神様がいつも私たちの身近にいらっしゃることを伝えています。神様は、「聖霊」という形で私たちのすぐ近くにいらっしゃる存在であるからです。

　しかし一方で、神様は、すべてを包み込む大きな存在でもあります。そのことを意味する言葉が「天」ではないかと思います。

　まもなく、…来月の 7 月 3 日になると日本の紙幣の図柄が刷新され、千円札・五千円札・1 万円札の肖像画が変わります。1 万円札の肖像は、福沢諭吉さんから、ついに、渋沢栄一さんに変わります。今まで 40 年間、…1984 年から 40 年間も 1 万円札の顔であった福沢諭吉さんに、私は「ご苦労様」を言いたい気分ですが、中学生の皆さんは生きてきた年数がまだ 15 年以下ですから、そんな気分にはならないでしょう。
　この、長く 1 万円札の顔であった福沢諭吉は、明治になって日本にヨーロッパの政治思想を取り入れた思想家で、慶應義塾大学を開いて多くの若者たちを育てた人です。
　その福沢諭吉の有名な著書である『学問のすすめ』には、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という言葉があります。「天」という漢字は、遠い昔に中国から入って来たものですが、今では「神」とほぼ同じ意味で使われることが多いです。

　先ほどの MPM の『小さな祈り』には、
　「ずっと　幼い頃に　空を見上げながら　感じていた平安　与えてください」
という歌詞がありました。「幼い頃」でなくてもいいですが、この歌詞のように、皆さんには「空を見上げた」という経験があるでしょうか❓
　天体観測が好きで望遠鏡を使いながら夜空を見上げている、という話とは違います。
　「天を仰ぐ」「空を仰ぐ」という言葉もありますが、何か辛いことがあった時に「空」を見上げた、という経験が、皆さんにはあるでしょうか❓

　『上を向いて歩こう』という歌があります。
　「上ーを　むーいて　あーるこ～う　涙がこぼれないよーうに　」という歌ですが、これは今から 63 年前に NHK のテレビ番組で歌われてヒットした曲です。
　もうお亡くなりになりましたが、これを作詞した永六輔さんは、この前の年、つまり 1960 年に、安保闘争で挫折した経験から、この詩を書いたとおっしゃっていました。永さんの世代からは、ずいぶん下の世代の私ですが、この歌を聴くと、涙をこらえて上を向いて歩いていたこの時の若者たちの目には何が映ったのか、と考えてしまいます。
　「　泣きながら～　あーるく　一人ぼっちの夜～　」
と、歌詞が続くので、若者たちは夜空を見上げていたのです。

空が曇っていたら見えませんが、永さんが見た夜空には月が輝き、星が瞬いていたのかなあ、と思ってしまいます。

皆さんは、月の輝きや星の瞬きに感動したことはありませんか❓
私は、特に月の輝きが好きです。なぜなら、月の輝きに接すると、そこに神様の愛を感じるからです。
月明りは、地球上の夜の闇をおだやかに照らします。月自体は光を発しません。その光は純粋に宇宙空間で太陽の光を反射しているものなのです。石油や石炭を燃やして、地上で人間がつくっている光とは違います。
純粋に太陽の光を反射しているだけの月という天体は、私たちに神様の愛を純粋に伝えている存在だと、私には思えるのです。

旧約聖書の詩編の 19 編の冒頭に
「天は神の栄光を物語り、大空は御手(みて)の業(わざ)を示す。」という聖句があります。
昼も夜も天をつかさどって私たちを包んでいて下さる神様に感謝して、日々、祈りを捧げたいと思います。

＜祈り＞
天にます神様。今朝もこうして、一同集められまして、一日のはじめにあなたに礼拝を捧げることができることを感謝いたします。
日々、勉強ややらなくてはならないことに追われ、なかなか天を、大空を見上げることが少ない私たちですが、どうか神様が大きな愛で私たちを包んでくださっていることを覚え、感謝して生活ができるようにさせてください。
女子聖学院では、運動会が近づいています。初めて経験することも多く、疲れを覚えている私たちですが、周りの仲間とお互いに配慮しあい、仲良く過ごしながら、あなたに喜ばれる学院生活が築けるようにお導きください。
今日一日もあなたが私たちの中にあって豊かに導いてください。
この小さな感謝と願い、イエス・キリストの御名によって、御前にお捧げいたします。

アーメン

2024 年 7 月 10 日　女子聖学院中学チャペル礼拝